

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成27年2月26日(2015.2.26)

【公開番号】特開2013-142860(P2013-142860A)

【公開日】平成25年7月22日(2013.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-039

【出願番号】特願2012-4145(P2012-4145)

【国際特許分類】

G 10 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 10 H	1/00	B
--------	------	---

G 10 H	1/00	A
--------	------	---

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月7日(2015.1.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項2】

前記判定手段は、

前記ピークレベルと、前記波形の変化度合いを示す値とが所定の関係を満たす場合に、前記波形が打面の打撃に基づく波形であると判定する請求項1記載の打撃検出装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項2記載の打撃検出装置によれば、請求項1が奏する効果に加え、ピークレベルと、波形の変化度合いを示す値とが所定の関係を満たす場合に、判定手段により、波形が打面の打撃に基づく波形であると判定されるので、例えば、弱い打撃に基づくピークレベルの小さい波形が、ノイズとして誤検出されることを防止できる。つまり、弱い打撃に基づくピークレベルの小さい波形を、ノイズとしてではなく、打面の打撃として検出できる。よって、弱い打撃に対する検出感度を向上させることができる等、打面の打撃に対する検出精度に優れるという効果がある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

入力部15は、パッド51に設けられた振動センサ51aを接続するインターフェイスである。振動センサ51aから出力されたアナログ信号波形は、入力部15を介して音源装置1に入力される。入力部15には、アナログデジタルコンバータ(図示せず)が内蔵されている。振動センサ51aから入力されるアナログ信号波形は、アナログデジタルコンバータによって所定時間毎にデジタル値に変換される。CPU11は、入力部15において変換されたデジタル値に基づいて、パッド51が打撃されたか否かの判定を行う。詳細

は後述するが、CPU11は、入力波形のピークレベルが閾値L1（図3参照）を超えるか、入力波形のゼロクロス回数が所定回数を超えた場合に、パッド51が打撃されたと判断し、パッド51に対応する音色の楽音をピークレベルに応じた音量で出力するよう指示する発生指示を音源16へ出力する。